

取組・活動名 難聴障がいの理解に関わる体験活動等の実施 「きこえない・きこえにくいってなに」

1 取組・活動のねらい

難聴体験を通して、健常児が難聴ということを理解し、難聴の方の立場に立って考えられるようにする。

2 教育課程上の位置づけ

総合的な学習の時間 2時間

3 実施学年・クラス・人数

第4学年 2クラス 68人

4 指導者（教諭・外部講師等）

埼玉県立特別支援学校
大宮ろう学園 コーディネーター
西野陽子教諭 永井美帆教諭

5 取組・活動の内容

①手話についての話を聞く

②手話学習

ア パワーポイントを使いながらいくつかの手話を教えていただく。
（あいさつ、よく使う手話、指文字、自己紹介等）

イ 興味のあることばの手話を質問し、アの学習と組み合わせて、自分たちで、手話で表現する。



③難聴疑似体験

・子供たちに耳栓とヘッドフォンをつけさせ、その中で、各担任の話を聞く体験をする。

・4人のうち1人だけが耳栓とヘッドフォンをつけ、グループで話し合い活動をする。

*聞こえにくさだけでなく、自分だけが聞き取れない孤独感に気付かせるようにする。



6 児童の感想

- ・指文字で自分の名前を表現できて、うれしかった。
- ・伝えたいことを手話で伝えられ、楽しかった。
- ・指文字や手話を覚えることは、難しく、大変だと思う。
- ・難聴体験では、自分だけが話にはいれず、悲しかった。
- ・周りが何を話しているのか予想すると、口の動きで分かることもあった。

7 成果

難聴体験をする機会はなかなかないので、とても貴重な経験となった。聞こえにくい時は、ボリュームを大きくすれば解決できることではないことや、難聴のための孤独感があることを、実際の体験によって深く理解することができた。